

海洋教育における資質・能力の育成について

海洋教育に関して、これまで海洋政策研究財団が、以下の4つの視点を提案しています。

①海に親しむ

豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通じて、海に対する豊かな感性や海に対する関心などを培い、海の支援に親しみ、海に進んで関わろうとする児童・生徒を育成する。

②海を知る

海の自然や資源、海をとりまく人や社会との深い関わりについて関心をもち、進んで調べようとする児童・生徒を育成する。

③海を守る

海の環境について調べる活動やその保全活動などの体験を通じて、海の環境保全に主体的に関わろうとする児童・生徒を育成する。

④海を利用する

水産物や資源、船舶を用いた人や物の輸送、また、海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解できる児童・生徒を育成する。

海洋政策研究財団「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」より

この4つの視点をコンピテンシーとして捉え、学習指導要領を考慮して以下のように整理しました。

	海に親しむ	海を知る	海を守る	海を利用する
小学校低学年	・海に関する基礎的・基本的な知識・技能を着実に獲得しながら、身近な自然的事象や社会的事象に興味・関心をもつ。			
小学校中学年	1. 海に関する問題を発見し、観察、実験や調査活動を通して、海に関する基礎的・基本的な知識・技能を活用しながら解決を図る。 2. 自然的事象や社会的事象について、事実とその要因を関係付けて捉え、自分の考えをもつ。			
小学校高学年	1. 海に関して発見した問題を定義し、解決の方向性を探して計画を立て、結果を予測しながら実行するとともに、新たな問題を発見して学びをつなげていく。 2. 持続可能な社会の実現に向けて、自然的事象や社会的事象について的事实とその解釈についてお互いの多様な考え方を共有し、自分の考えを評価・改善しながら自分の意見を形成する。			
中学校	・海に関する基礎的・基本的な知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力等を生かしながら、持続可能な社会の実現に向けて、どのように社会・世界とかわり、よりよい人生を送るかを考えて行動する。			